

極東海運実業株式会社

マーケットレポート 2015年4-5月

Monthly Market Report April-May 2015



ドライマーケットが長らく低迷しています。世界の海上荷動きは増えているが、それ以上に船腹量が増えているようです。今まで何度となく申し上げてきましたが、世の中何事も「沈みつ、浮きつ」、海運も例外ではありません。市況回復にはまだ時間がかかるというのが通説の様ですが、昨今の GEOPOLITICAL/REBALANCING を背景に間もなく海運市況も上向いてくるでしょう。株式市場はさておき、為替(円安)と低金利は現状維持であって欲しいものです。

日本も含めて、世界は米国主導で推移してきました。米国の価値観で世界の民主主義に関与してきましたが、これも限度があるように見受けられます。世界の警察官たるには費用もかかるし、米国国民の負担にもなります。これ以上の価値観の押し売りはお止めになって、上向きトレンドの自国の景気増強により御尽力願いたいものです。欧州もEUで一体化した大きな経済圏ですが、域内での実力の差が歴然としてまとめ切れいていません。世界のオピニオンリーダーとは言い難し。依然として注目すべきは中国でしょう。中国主導の AIIB は野球で言えば2/3塁打で打点をあげたのでしょうか、これからの推移を観る必要はありましよう。足元ではいろいろ問題を抱えている筈です。年初に中国の製造業景況が悪化(製造業購買担当者景気指数—PMI)、節目の50割れしたのは一寸気になります。国内経済の質をもっと高めて欲しいと思います。先日、ロシアのモスクワとサンペトロブルグに行きましたが、何れも大都会で殆どヨーロッパ先進国と変わりません。景況を肌で感じるに至りませんが、やはりオピニオンリーダーとは云い難いと想われます。要するに冷戦前とは異なり世界秩序は複雑化しているのです。

しょうか？歴史認識云々云われますが、戦後においては貿易、技術、文化の分野ではお互い良い交流をしてきた筈で互惠平等なのです。民間外交を先行すれば政治問題は解決します。

以上が GEOPOLITICAL であり、世界は REBALANCE 途上なのです。要するに、小さな地球で各国が仲良くすれば物流は増え、その途上で一寸したきっかけで世界の景気が好転すれば、船腹過剰は即解消し、海運市況は急激に改善されるのです。トンネルの先に明かりが見えています。

話はマイクロになりますが、オリックスが撤荷積み船を21隻発注、600億円投資とか……これは明らかに投資です。出口 (EXIT) が3年以内としての読みでしょうか？ 足元過剰船腹の中、トンネルの先に明かりが見えていると読んだのでしょうか。しかし、チョイと違和感を感じます。ファンドによる投資資金が海運業界に流入しだして、SUPPLY/DEMAND を崩す現実がありました。今治造船が大型ドックを新設する発表がありました。これは需要に対応したものでしょう。中国/韓国と競合出来る造船所だけに、せいぜい気張ってやって下さい。ツネインがインドネシアに造船所を新設する発表がありました。かかる事業は今後、日本の大手造船所では出来ないのでしょうか。せいぜい気張ってやって下さい。何れも実需に基づいた投資であれば違和感を感じません。

野田 著

2015年4月成約

Name	Type	Size		Year	Country	US\$/Mill	
Orchid Ocean	Bulk	45300	Dwt	1994	Japan	3.8	
Amber Halo	Bulk	45292	Dwt	1995	Japan	3.9	
Sea Rose	Bulk	45700	Dwt	1995	Japan	4.5	
Colchester Castle	Bulk	45300	Dwt	1996	China	4.1	
Aristea M	Bulk	45584	Dwt	1997	Korea	4.7	
Kite	Bulk	47195	Dwt	1997	China	4.4	
TMS Maria	Bulk	52400	Dwt	2001	Japan	7.5	
Gypsum Centennial	Bulk	47950	Dwt	2001	Korea	21	En bloc
Gypsum Integrity	Bulk	47761	Dwt	2009	Korea	21	En bloc

2015年5月成約

Name	Type	Size		Year	Country	US\$/Mill
Agia	Bulk	45296	Dwt	1994	Japan	3.5
Coposa	Bulk	46500	Dwt	2002	Japan	6.8
Huarmey Queen	Bulk	46412	Dwt	2006	Japan	9